

---

# 裏六平村

らく太

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

裏六平村

### 【Nコード】

N2140L

### 【作者名】

らく太

### 【あらすじ】

失踪から全ては始まった・・・。

## 見慣れた風景（前書き）

初めての小説で完全処女作です。  
文章が雑になってしまっているところもありますが、  
宜しく願います。  
読んでいただければ幸いです。

## 見慣れた風景

### プロローグ

聞いたことがある。「そこ」には行つてはいけない。行つてしまうと「そこ」からは逃れる事はできない。

おじいちゃんが言っていた。この言葉は覚えていたつもりだった。教師をして3年目。俺は謎の失踪をした。誰も俺の行方は知らない。

そして、俺は今もここで助けを待っている。血肉のにおいのただよう。この、六平村の地下にある裏六平村で。。。

### 第一話 見慣れた風景

チュンチュン。チュンチュン。チュンチュン。チュンチュン。チュンチュン。グシャ

うるさいな。黙れよ。お前が黙らないから悪いんだ。全てお前のせいだ。

またやってしまった。

「今の音・・・アンタまたやったんでしょ」  
下から親のうるさい声が聞こえる。黙れ。

「アンタいい加減、時計を壊すのはやめなさい」  
このくらいでガタガタと。ぬかすな。

俺はめんどくさいながら朝食を食って六平村中学校に向かった。

「.....」

友達？そんなものは必要ない。いらぬ。邪魔だ。

「美空くん！みくそらくん！」

うるさいのが来たよ。なんなんだ。

何かようか？

「おはよ〜今日、日直だよ！頑張ろうねん」

コイツは友達でもなんでもない。ただのクラスの響 のぞみとかいうヤツだ。

好き？そんな感情は俺にはない。いや、必要ない。

全ての授業が終わりさっさと帰ろうとすると

「ちよつと待ちなよ！日直だつてば」

またコイツだよ……。

うるさいなー一人でやってるよ。

「なによそれ……。アタシだつて嫌だけどやってるんだよ？」

ウザい女子中学生のテンプレか・コイツは……。

あーあー分かったよ。やりやあいんだろやりやあ。

30分もかかるとはな……

教育指導のヤツに掃除をついでにって言われてな。

やっぱり学校つてのは、いいことなんてないんだな。

「またねん 美空くんっ！」

シカトしていると……

バン！肩をたたかれた。

あーあー分かったよ。じゃあな。

響はイキイキして帰っていった。

帰ってもやることは特にない。

親をスルーして、飯を食って、寝るだけだ。  
やっぱりつまらなかった。

## 失踪

### 第二話 失踪

ちゅんちゅんちゅん・・・

いつもの音が聞こえない。

そうか。時計は壊してしまったんだった。  
ドンッドンッ。

親が階段を上ってくる。もう起きてるっての。

「起きなさい！アンタいつもいつも・・・一人じゃ起きれないの？」  
起きてるんだが、お前は勘違いも甚だしいぞ。

あーあー起きてます起きてます。  
飯を一瞬で食って家を出た。

キーンコーン。終わった。

今日はなんかいつもと違った。なにかが・・・。

・・・

・・・

・

アイツがいない。アイツがいなかった。

いつも喋りかけてくるアイツが・・・。

風邪だるうとも考えたが、アイツは小学生の頃から病気はしない。

そう。アイツ・・・響は幼馴染なんだ。

なんか寒気と鳥肌が立ってきた。

クラスメイトの仲のいいヤツらも何もいってなかった。

まるでアイツが最初から居なかったように・・・。

なんで、心配なんてしてるんだろう。

アイツなんか・・・アイツ・・・  
「じゃあね」・・・。。。  
帰ってこない気がした。

すぐにアイツの家に向かった。  
ピンポンピンポンピンポン  
誰も出てこない・・・。  
鳥肌がさらに立つ。

失踪・・・失踪・・・失踪・・・失踪・・・

そういえば教師が最近、行方不明になってたよな。  
目撃情報で、山神社に居るのを見たってニュースでやってたな。  
行ってみないと分からない。

山神社は結構近くだ。30分あればつく。  
自転車を急いでこいだ。

はあはあ・・・

もう真っ暗になっている。よく見えない。  
ガツ。

なんだ？こんなデカイ鳥居なんてあったか？  
その鳥居をくぐった瞬間、体が浮いた感じがした。  
いや、違う浮いたんじゃない。落ちてるんだ。

・・・

・

・

ん？ガチャガチャ。

なんだこの白くてコツコツした・・・

骨だ・・・。なにかの骨がある。

うわあああ・・・うわああああああああああああああ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2140/>

---

裏六平村

2010年10月28日06時08分発行